

「新しい時代の学校構想にかかるアンケート調査」

資料①

- ◆実施時期 令和5年9月25日(月)～10月2日(月)
- ◆実施方法 メールに添付されたURL又は紙媒体のQRコードからデジタル回答
※9月29日(金) 回答確認メール配信
- ◆対象者 小中義務教育学校保護者(5,670名)、学校運営協議会委員(161名)
教職員(466名 ※常勤・非常勤・会計年度任用職員を含む)
- ◆回答数(回答率) 全体 2,653件(42.1%)
小中義務教育学校保護者 2,233件(39.4%)
学校運営協議会委員 70件(43.5%)
教職員 350件(75.1%)

<アンケート内容>

※<その他>を選択した場合、その内容を記述していただいています。

【Q 1】回答者の立場を選択してください。保護者で学校運営協議会委員を兼ねる方は保護者として、教職員の方は教職員の立場で回答ください。

- ア 保護者(祖父母含む、イを兼ねる方)
- イ 学校運営協議会委員(現在、学校に子どもは通っていない)
- ウ 教職員(常勤・非常勤、会計年度任用職員)

【Q 2】回答者の年代を選択してください。

- ア 29歳以下
- イ 30歳～39歳
- ウ 40歳～49歳
- エ 50歳～59歳
- オ 60歳以上

【Q 3】保護者の方は、お子さんの学校の中学校区を、学校運営協議会の方は、所属する学校の中学校区を、教職員の方は、勤務している学校の中学校区を選択してください。

- ア 羽島中学校区
- イ 竹鼻中学校区
- ウ 中央中学校区
- エ 中島中学校区
- オ 桑原学園校区

【Q 4】 羽島市の子どもたちや我が子に身に付けさせたい、これからの社会人に必要だと思う力や姿を3つまで選んでください。

- ア 相手の思いや考えを理解し、話を聴く力
- イ 根拠をもとに自分の考えを説明する力
- ウ 様々な情報を正しく理解し、必要な情報を選択し、活用する力
- エ 目標に向かって仲間と協力しながら活動する力
- オ 失敗を恐れることなく、新しいことに挑戦する姿
- カ 進んでボランティアや奉仕活動に参加する姿
- キ 学校や地域、そして国や世界のことに目を向けて考えようとする姿
- ク その他

【Q 5】 羽島市の学校教育の特色のうち、さらに積極的に取り組んでほしいことを3つまで選んでください。

- ア タブレット端末等を活用した授業や活動
- イ 自然やものづくりなど、本物に触れながら学ぶ体験的な活動
- ウ 地域について学ぶ「ふるさと学習」
- エ 小学校から教師の専門性を活かした授業
- オ 休日の中学校部活動の地域移行（運動部活動・文化部活動）
- カ その他

【Q 6】 羽島市では、小中一貫教育の推進（義務教育学校「桑原学園」、小中連携、中学校区での教育活動）について力を入れています。期待する内容を3つまで選んでください。

- ア 小学校から中学校への接続（学習面や情緒面）がスムーズに行われる
- イ 異年齢交流により子どもたちの健全な発達（思いやり・憧れ）につながる
- ウ つまづきやすい学習は、学年をこえて柔軟に学び直しができる
- エ 小学校の時から子どもを見続けている先生が中学校にもいるので安心できる
- オ 9年間を同じ仲間関係で過ごすため、人間関係を深めることができる
- カ その他

【Q 7】 羽島市の今後の学校における望ましい教育環境を3つまで選んでください。

- ア 体験的活動や外国語教育等、特色ある学習が受けられる教育環境
- イ 仲間と切磋琢磨し、学力や体力の向上を目指せる教育環境
- ウ 行事や活動を通して、豊かな人間関係を育める教育環境

- エ 学習や行事等において、地域との連携が充実している教育環境
- オ 学校の校舎や設備、教材が充実している教育環境
- カ クラブ活動や部活動が充実している教育環境
- キ 学習や行事において、時間的なゆとりがある教育環境
- ク その他

【Q 8】 羽島市では、不登校及び不登校傾向の児童生徒への支援について力を入れて取り組んでいます。今後さらに取り組んでほしいことを3つまで選んでください。

- ア 児童生徒一人ひとりが安心して学習・生活できる教育活動の工夫
- イ 教室に入りづらいときに学習や生活できる部屋（相談室等）の充実
- ウ 学校に行きづらいときに学習や生活できる場所（適応指導教室）の充実
（※適応指導教室「こだま」「のぞみ」）
- エ 子どもたちを応援、サポートする相談員等の充実
- オ テレビ会議などオンラインを活用した学習や活動
- カ SNS等を活用した教育相談体制の充実
- キ 保護者同士が交流できる場の設置や情報を交流できる体制づくり
- ク その他

【Q 9】 これまで選択した教育を実践していくためには、小学校及び義務教育学校前期課程では、1学年に何学級あることが望ましいと思いますか。

- ア 1学級 イ 2～3学級 ウ 4学級以上 エ その他

【Q 10】 これまで選択した教育を実践していくためには、中学校及び義務教育学校後期課程では、1学年に何学級あることが望ましいと思いますか。

- ア 1学級 イ 2～3学級 ウ 4学級以上 エ その他

【Q 11】 1学級あたりの児童生徒数（※）は、何人程度が望ましいと思いますか。

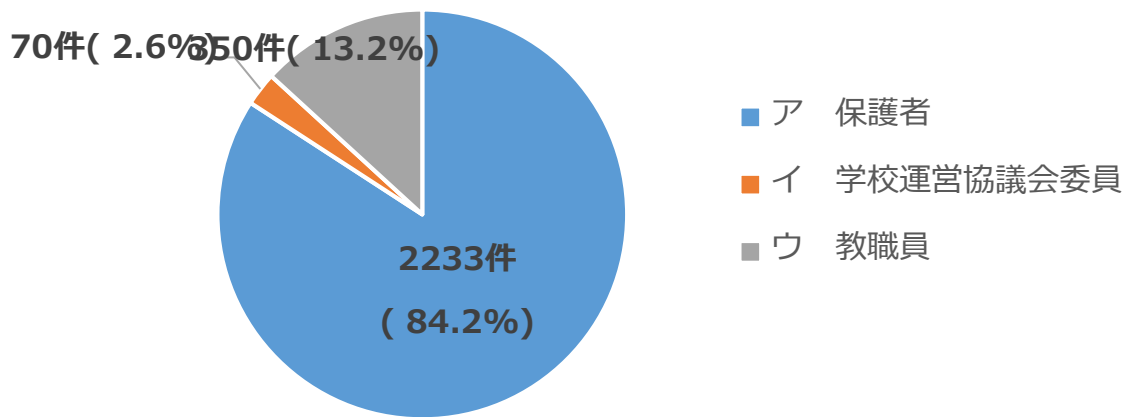
※…現在岐阜県では、1学級最大35人となっております。

- ア 10人以内 イ 11～20人 ウ 21～30人 エ 31～35人 オ その他

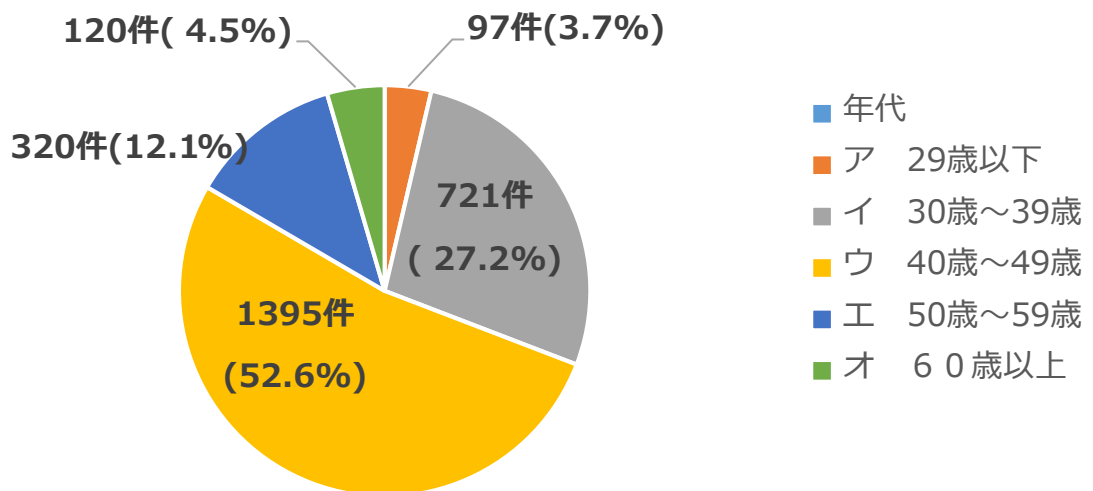
【Q 12】 これまでの質問の他、今後の学校教育や学校のあり方に関してご意見がございましたら、ぜひお聞かせください。

<アンケート結果>

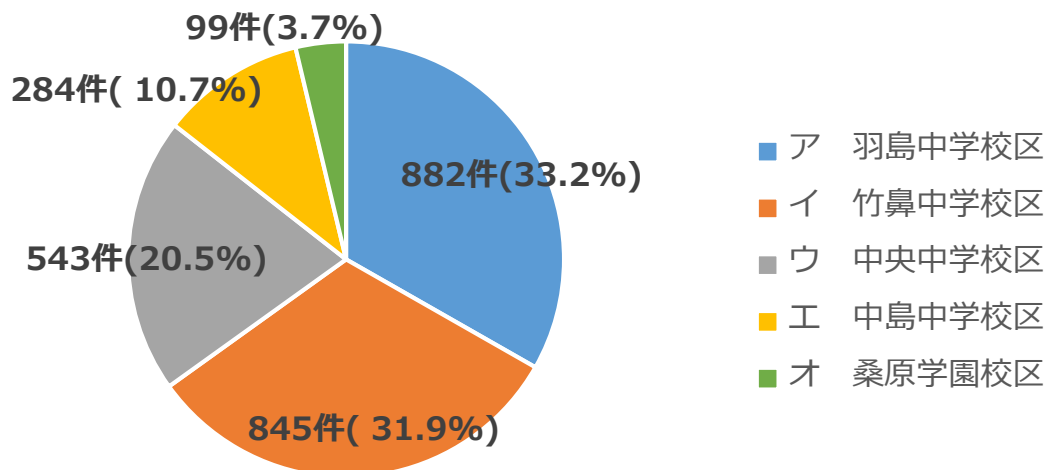
Q 1 回答者の立場



Q 2 回答者の年代



Q 3 中学校区

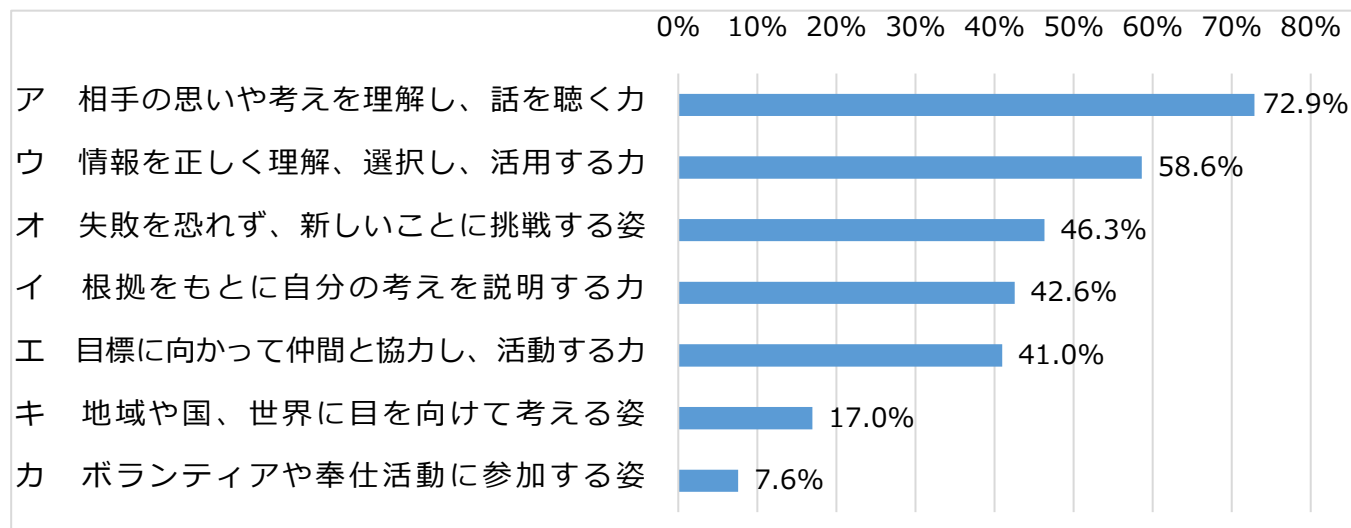


(2) アンケート調査を踏まえた新しい時代の学校構想について

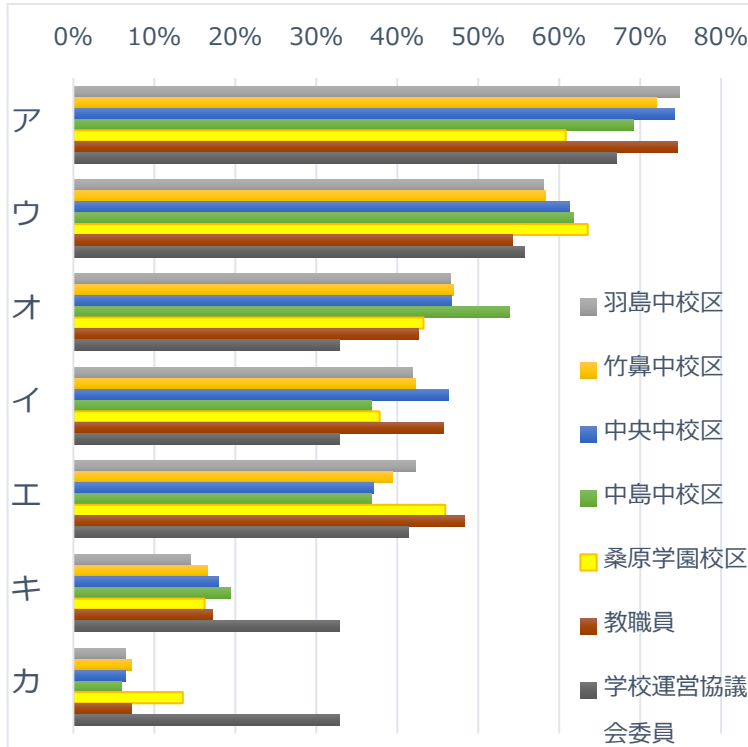
ア 志を持ち心豊かに学びあう教育について【Q4～Q5、Q7】

Q4 羽島市の子どもたちや我が子に身に付けさせたい、これからの社会人に必要だと思う力や姿は

1 全体結果



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

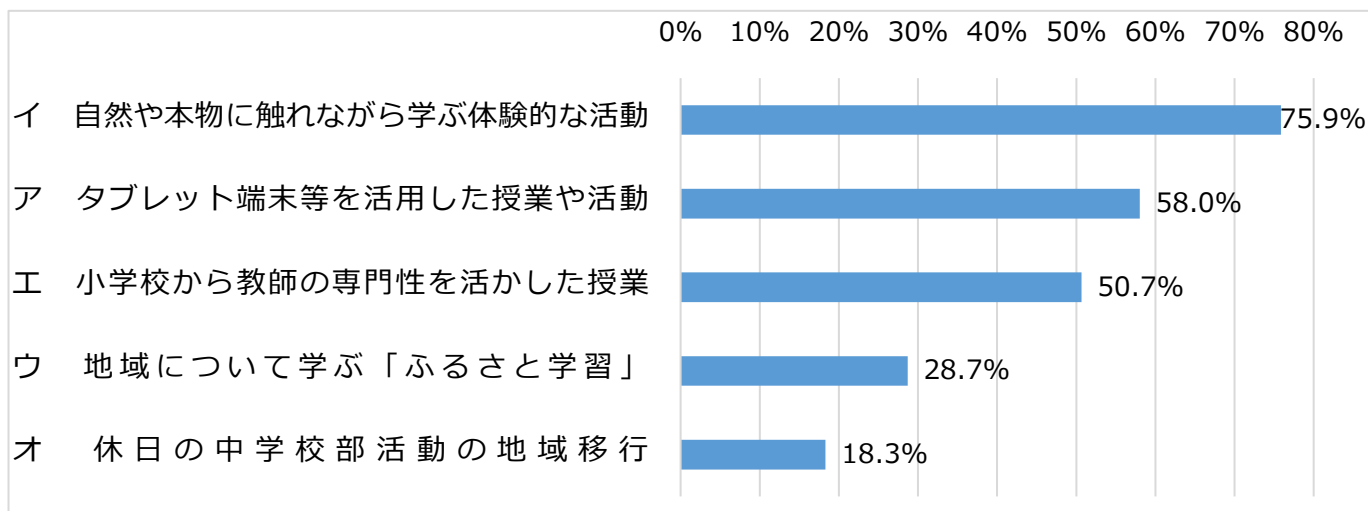
- ・ 選択肢アとウの数値が高い。基礎学力と、これからの時代の特徴の一つである情報化社会で生きるためのスキル育成の優先度が高い。
- ・ 選択肢キとカについては、保護者・教職員と学校運営協議会委員とで大きな意識の差がある。

3 「その他」の主な意見

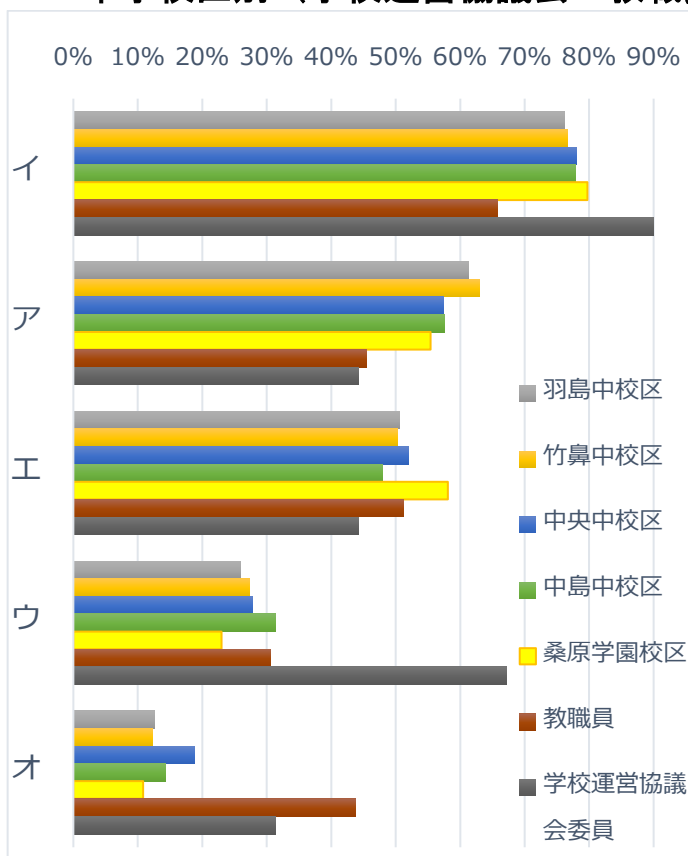
- ・ たくさんの出会いや触れ合いの中で、自らの良さをみつけ、自分にできる役割を考える姿等

Q5 羽島市の学校教育の特色のうち、さらに積極的に取り組んでほしいことは

1 全体結果



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

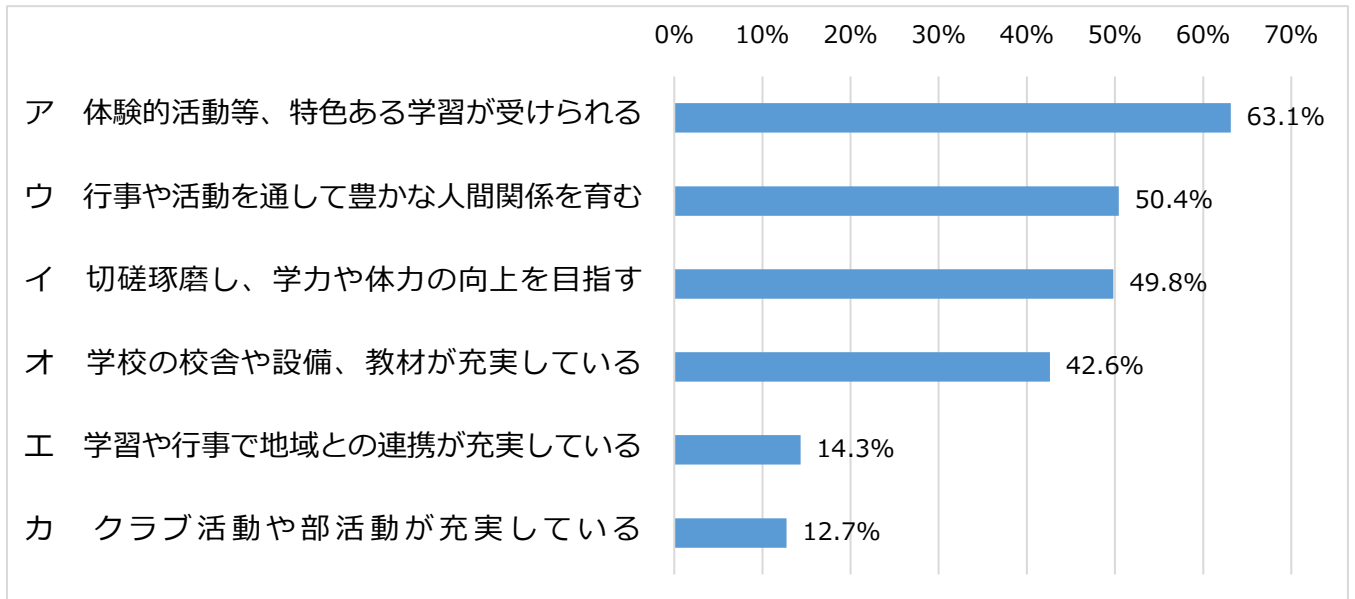
- ・ 選択肢イの数値が最も高い。その中でも学校運営協議会委員からの期待が高い。
- ・ 選択肢アとエの数値が高い。桑原学園は1年生から一部教科担任制を実施しているため、選択肢エにおいて周りの中学校区よりも数値が高いと考えられる。
- ・ 選択肢ウは、保護者・教職員と学校運営協議会委員の意識の差が大きい。

3 「その他」の主な意見

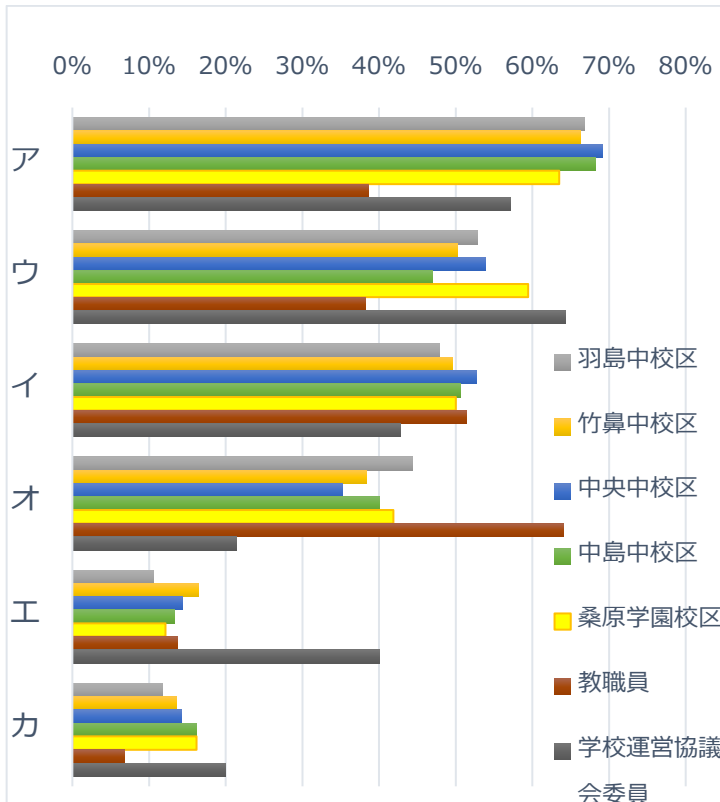
- ・ それぞれの特技（得意分野）を見つけ出せるような授業や将来を見据えた活動等

Q7 羽島市の今後の学校における望ましい教育環境は

1 全体結果



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

- ・ 選択肢アの数値が最も高い。教職員以外からの優先度は高いが、教職員の優先したいものは選択肢オであり、設備や教材の充実を願っている。
- ・ 選択肢ウとイの数値も高い。ウについては、学校運営協議会委員と桑原学園校区からの優先度が高い。現在特に児童生徒が少ない桑原学園校区では、仲間同士のかかわりや仲間とともに活動できる教育環境の優先度が高い。

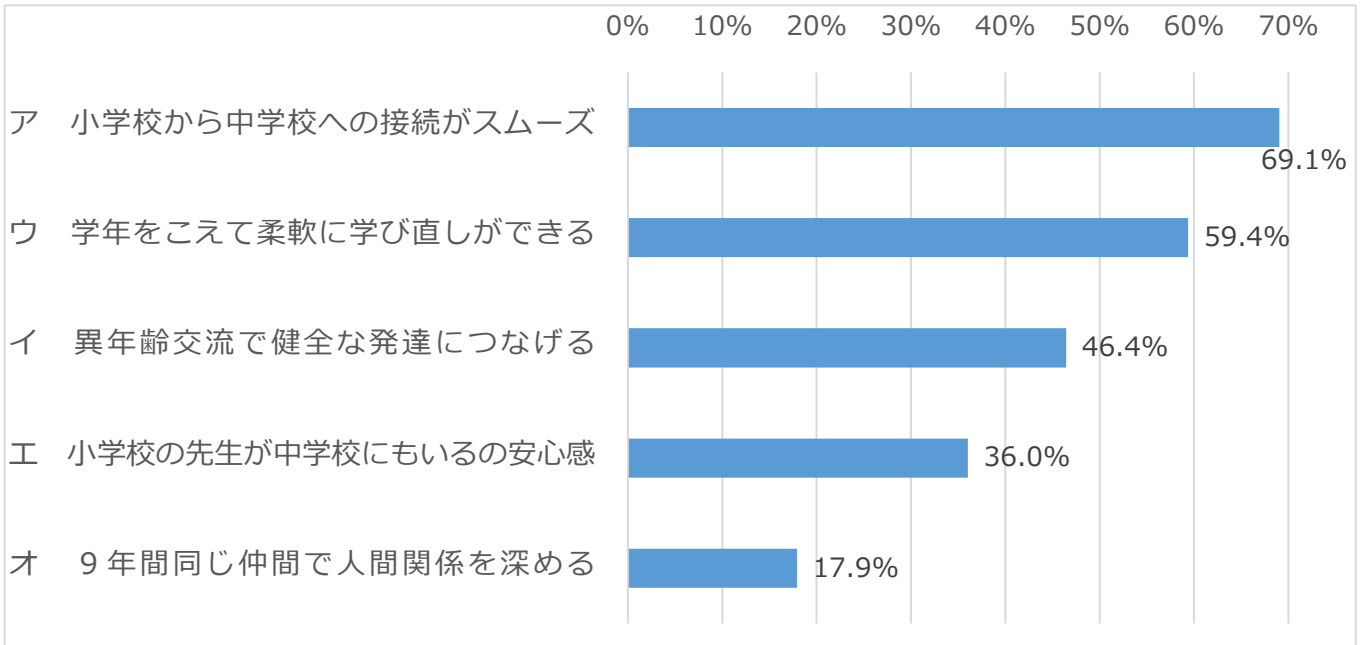
3 「その他」の主な意見

- ・ 他校の生徒と交流できる機会を増やしてほしい
- ・ 生き残ってほしい会社や伝統、技術などを学べる経験ができる環境がほしい

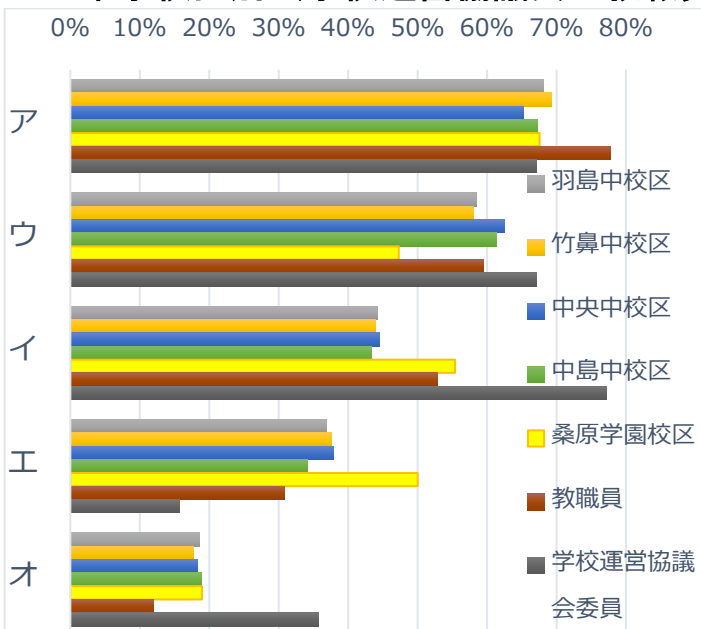
イ 新しい時代において求められる学校教育制度、学校運営、学校配置等について【Q6、Q8～Q11】

Q6 羽島市では、小中一貫教育の推進について期待する内容は

1 全体結果



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

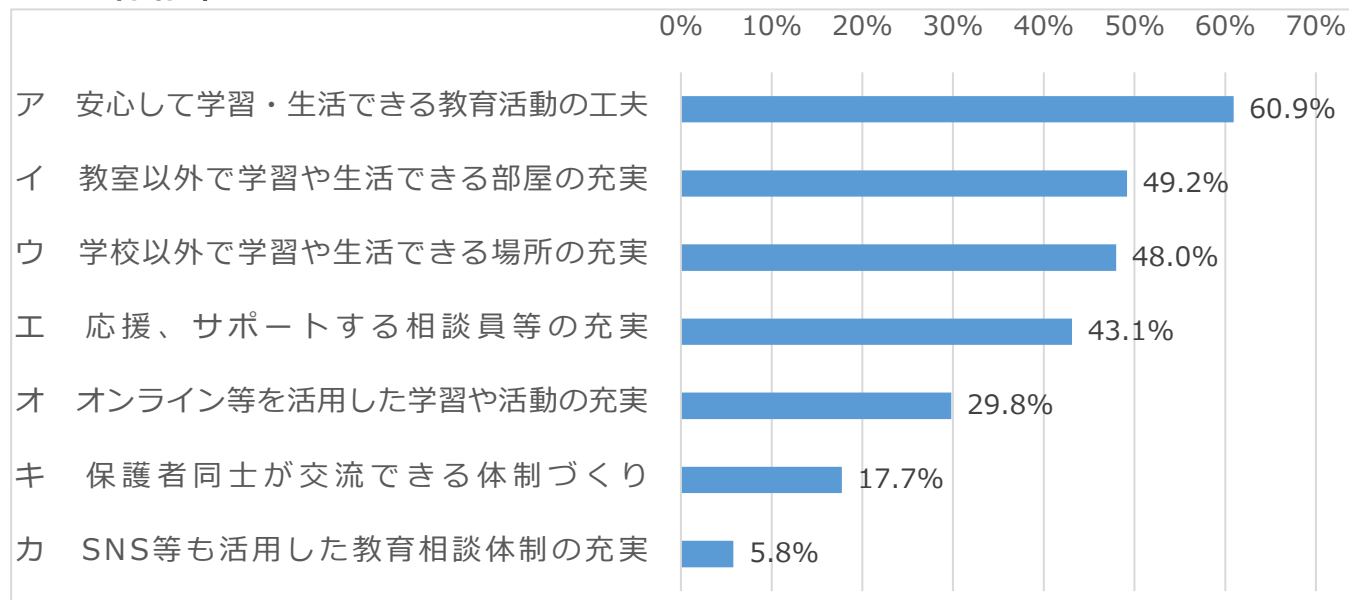
- ・ 選択肢アの数値が最も高く、続いて選択肢ウの数値が高い。基礎学力の定着と豊かな人間関係に係る項目の期待が高い。
- ・ 選択肢イは、特に学校運営協議会委員からの期待が高い。また、桑原学園では継続的に異学年交流が行われており、一定の成果と考えられる。

3 「その他」の主な意見

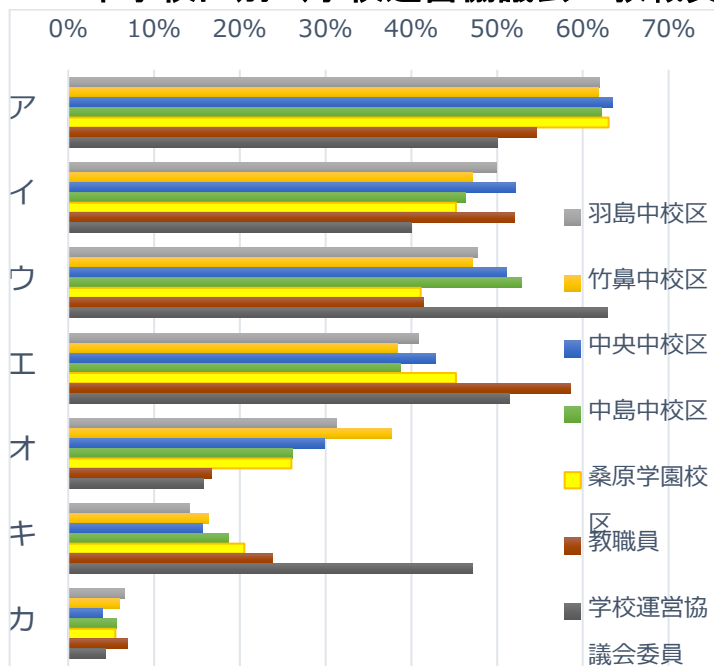
- ・ 一貫教育のメリットが伝わりにくい
- ・ 多くの小中一貫校は、過疎化して一つになった感がある。本当の意味で一貫校を考えるなら、大規模校だと思う

Q8 不登校及び不登校傾向の児童生徒への支援について今後さらに取り組んでほしいことは

1 全体結果



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

- ・ 選択肢アの数値が最も高い。続いて選択肢イとウが高い。我が子が不登校になった場合、多様な居場所や相談できる場所を希望していることがわかる。
- ・ 教職員は、選択肢エの優先度が高い。Q7でも「学校設備や教材の充実」が高く、設備や人材等、学校運営における教育環境の充実を希望する傾向が高い。

3 「その他」の主な意見

- ・ 家庭で一人一人に合った学習ができるオンライン授業やタブレット学習の1層の充実してほしい
- ・ 転校や学区を超えた学校選択など柔軟な対応をしてほしい
- ・ 不登校の子が通える不登校特例校をつくり、医療機関等とも連携してほしい

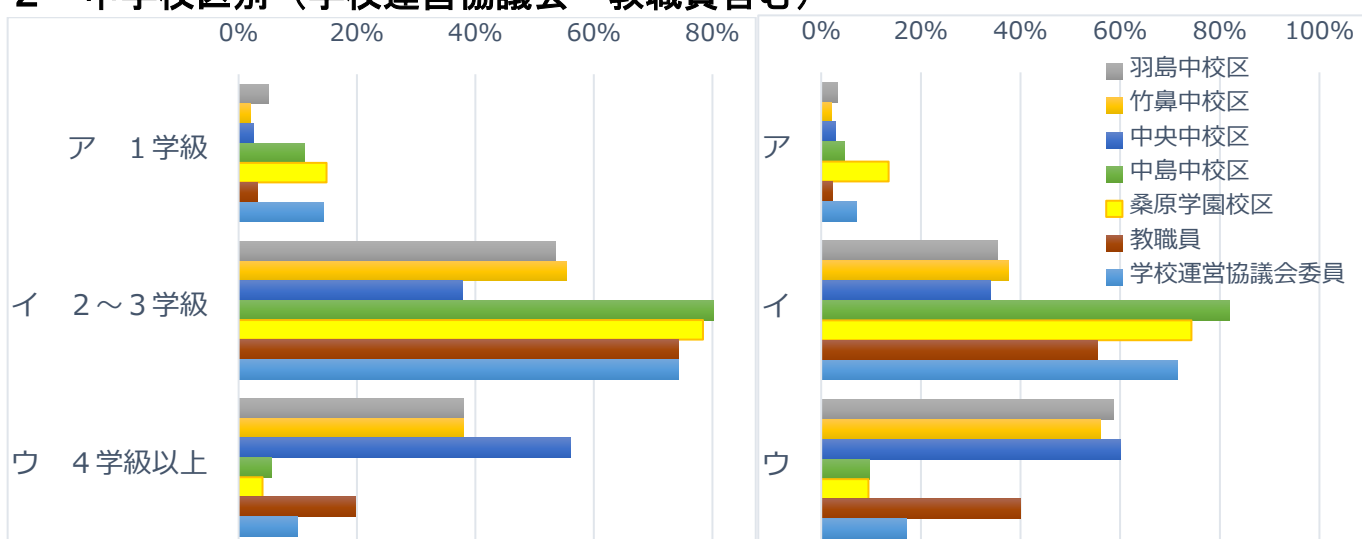
Q9 小学校及び義務教育学校前期課程では、1学年に何学級あることが望ましいか

Q10 中学校及び義務教育学校後期課程では、1学年に何学級あることが望ましいか

1 全体結果



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

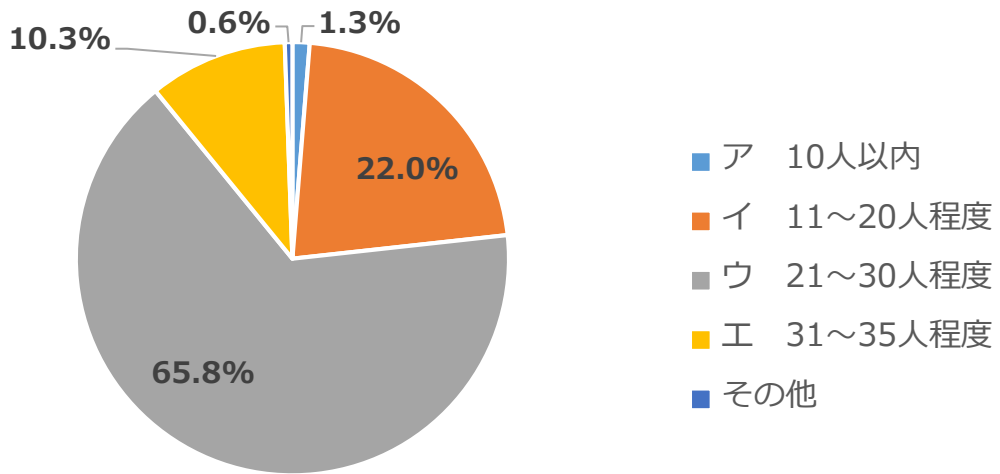
- ・小学校では、イの「2～3学級」の希望が多い。特に中島中校区、桑原学園校区は、1学年に複数の学級を希望。教職員、学校運営協議会ともに、「2～3学級」を希望が多い。
- ・中学校では、ウの「4学級以上」を希望が多い。羽島中校区、竹鼻中校区、中央中校区は、ウの「4学級以上」を希望が小学校と比べて強い。しかし、中島中校区、桑原学園校区、教職員、学校運営協議会は、イの「2～3学級」の傾向が強い。
- ・Q7、Q8の回答と関連させると、仲間と切磋琢磨したり、豊かな人間関係を構築したりしていくためには、複数の学級が必要だと考える傾向が高い。

3 「その他」の主な意見

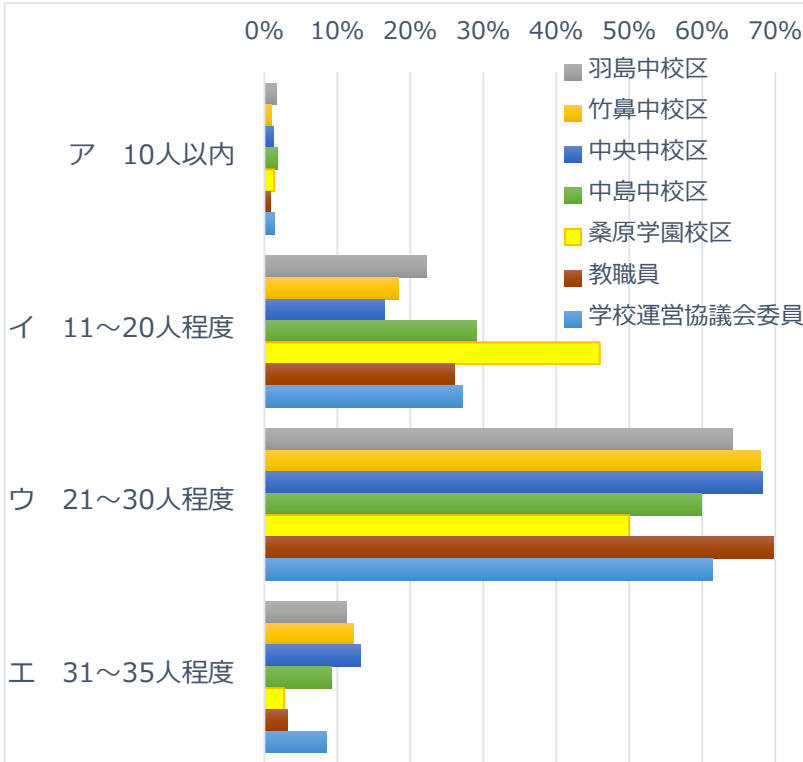
- ・あえて少人数の学校を選択して、学校に通わせている保護者もいる
- ・クラス分けをすると、子ども側の心身の負担になる可能性があるため、クラス分けは行わない
- ・クラスになじめないときは、クラスを自由に行き来できる

1 全体結果

Q11 1学級あたりの児童生徒数は、何人程度が望ましいか



2 中学校区別（学校運営協議会・教職員含む）



【結果から】

- ・選択肢ウ「21~30人」を希望する傾向が強い。
- ・Q6 回答と関連させて、小学校から中学校への接続の際、少人数にすることで、よりきめ細かな指導の充実につながると考えている。

3 「その他」の主な意見

- ・1学級あたりの人数は、決まっているし一概に言えない
- ・学校や学年によってそれぞれなので、わからない
- ・一クラス何人かを考えるよりも、児童生徒何人に対して教員は何人かを考えたほうがよい

Q12 自由記述からの抜粋

人とのかかわりや体験的な活動に係る意見

- ・校外で観察したり見学、体験したりする学習を小学校のうちに多く経験できる学校
- ・体験学習(職業体験)が小学校のうちから体験でき、何のために勉強するのかという事を体験と結び付ける事が重要
- ・実際に体験してみないとわからないこともたくさんある。人とのかかわりをたくさんして相手のことを考えて行動や発言ができる人を育てる
- ・子どもたちにコミュニケーション能力を。今の時代、人との付き合い方が気薄になっているため、もっと学級、学年、学校の中で交流が出来るようにする
- ・積極的に体を動かしたり、グループワークをしたりなど、授業の工夫
- ・変化の激しい社会においてもあらゆることに興味関心を抱き、たくましく生きていく力や人のやさしさや痛みの分かる人間として、誰かと支えあいながら挫折感等を乗り越えていける様になること。また、多様な価値観に触れ、感受性を育ててほしい

保護者や地域との連携・協働にかかわる意見

- ・地域と密に心を通わせながら、先生も子どもも保護者も地域もみんなが丁寧にかかわり合える学校
- ・さらに親が学校とかかわれるような環境。授業の手伝いなどを募集してほしい
- ・保護者から、家庭科ボランティアなど、先生のサポートを率先してできる提案が素晴らしい
- ・学校の事に地区の人達がさらにかかわり、学校教育の充実に協力したい
- ・小学校は地域コミュニティの核。地域のお年寄りの力を上手に借りながら、他市には無いような特色ある学校作りを

教育環境にかかわる意見

- ・どこであっても誰であっても楽しく学べる環境
- ・クラスの枠にとらわれることなく、自分の学びたいことを取捨選択できる環境で、同じ歳の子だけでなく、幅広い年齢とのかかわりもできる教育環境
- ・クラス替えがあり、新たな気持ちで新学期を迎えられる教育環境
- ・障がいのある子達への支援が充実している教育環境

その他の意見

- ・社会の問題などについて考える力や、生活力を育てる教育
- ・子どもの得意や個性を伸ばす教育。今後様々な事が AI に置き換わっていく中で自ら新しい事を切り開いていく力を育む教育
- ・先生にゆとりを。子どもたちが先生に相談などしやすくなる
- ・学校が街の拠点となるような施設で、子どもたちの視野を広げる施設に。そこでできない体験、学習、交流などの刺激が必要
- ・市内の学校の規模が小規模校と大規模校で児童生徒の人数に偏りがある。学校の規模がもう少し均一になれば、市内足並み揃った指導ができる

議事(3) 喫緊の課題に対する進捗状況

ア 休日文化部活動の地域移行について

8月の検討委員会を受け、文化部活動の移行について下記のような取組みを行ってきた。

① 対象部活動、指導者の選定

運動部活動の移行を先行的に行ってきた竹鼻中学校と協議し、移行モデルの部活動案として、茶華道部と美術部を想定している。

現在の竹鼻中学校の茶華道部は、長きにわたり同一の外部指導者が担当されており、今後も継続していただける方向である。また、美術部においては、美術専攻の教員が指導しているが、移行後は社会人指導者として取り組むことを理解しており、同校に配属されている間は継続して指導する予定である。

② 運営団体の選定

運動部活動を運営している団体、その他に、文化振興に精通している団体に相談をさせていただいたが、運営については不確定な要素が多いため、不安視されている。

現在、運営団体について検討しているところである。

イ 不登校児童生徒への対応について

① 不登校の現状

不登校により30日以上欠席した児童生徒数 () 内は全欠人数

	5月	6月	7月	9月
小学校・前期課程	9 (4)	21(3) +12	27(3) +6	33(2) +6
中学校・後期課程	32 (11)	67(9) +35	76(9) +9	97(9) +21
合計	41 (15)	88(12) +47	103(12) +15	130(11) +27

- ・夏休み明けに向けての指導が、機能しきれず、大幅な増加傾向がみられる。現在、羽島市教育委員会の指導も含め、対応している。
- ・夏季休業を区切りに本人が登校したり、家庭訪問で会えたりすることができた。本人の意欲が少しずつ出てきており、相談員やSCをはじめ、様々な支援員のサポートを行うことができている。
- ・6月から「のぞみ」が開設され、児童生徒の選択肢が増え、各学校の相談体制が確立され、全欠児童生徒数の増加をおさえられてきている。

② 校内適応指導教室「のぞみ」の利用状況

現在、適応指導教室の利用者（体験含む）は28名で、その内「のぞみ」の利用者は14名。「のぞみ」を利用している児童生徒は、プログラミングや学校の学習を黙々と行ったり、体育館でバドミントンやピアノを弾くなどの体験をしたり、複数の仲間とカードゲームやボードゲームをしたりして過ごしている。小集団での活動や自分で決めた活動をやりきることで、少しずつ自分に自信がもて、笑顔で過ごす時間が増えてきている。

学校とは違い、自分のスピードで生活できやりきる経験を体感し、認められたり、「できない」と素直に自分の思いを伝えたりしながら、コミュニケーションをとる機会を増やしていきたい。

③ メタバースの進捗状況

整備が整い、適応指導教室の職員で研修中。各学校の相談員や教育委員会の職員で実施検証を行い、活用方法やトラブルの対応等、課題点を明確にしていき、引きこもりの児童生徒へアプローチをかけつつ、「こだま」や「のぞみ」、各学校の相談室で過ごしている児童生徒を招き、新たな居場所づくりやコミュニケーションのきっかけづくりとする。

*本日、委員の皆様には、メタバースを用いた不登校支援について、実際の映像を用いて紹介させていただきます。